

保育計画成果報告書

法人名等	社会福祉法人東光会
施設名	ノイエ保育園
報告者（役職）	山根 奈保子（施設長）
住所・連絡先	岡山県岡山市北区今 7-17-7
	TEL 086-244-6600
	E-mail ota-hi@oofuku.jp

○タイトル（保育計画）

笑顔いっぱい 友達いっぱい 体いっぱい動かそう！

○主な助成備品

三輪車、足漕ぎ三輪車、三輪車収納庫、等

1. 保育計画策定の目的

幼児期は、基本的な生活習慣や、意欲、態度など一生に渡る人間形成の基礎を培う、とても重要な時期です。子ども達は、遊びや日常生活の中のさまざまな経験を通して、知的かつ情緒的に発達をしていきます。私達大人は、子どもにとって適切な経験を用意することがとても重要になります。

近年、住環境や生活スタイルが変わるにつれて、三輪車を使って遊ぶ姿をあまり見かけなくなりました。自分の力で漕いで遊ぶ三輪車は、脚力、バランス感覚の発達、友達との楽しさの共有、子ども同士のものの貸し借りなど、様々な体と心の育ちを促します。

そこで、ノイエ保育園の園庭で3歳未満児が遊べる三輪車などの乗り物を整備して、より魅力的でワクワクするような園庭環境を子ども達に提供できるようにと計画を策定、実施することとしました。

2. 具体的な実施内容

〈三輪車〉〈足漕ぎ三輪車〉

職員の配置を確認し、安全面に十分に配慮し、広い空間で思い切り楽しめるようにしました。三輪車では、ペダルが漕げるように保育者が足の動かし方を知らせます。また、進み初めに力が必要なので、保育者が後ろから少し押すことで前に進むきっかけを作り、乗り物で遊ぶ楽しさが感じられるようにしました。



2歳児：ペダルを漕いで前に進めるようになったよ～



1歳児：三輪車で集合！
ほら、チューリップが咲いてるよ



0歳児：僕も乗れたよ



道路に見立てた線を描くと、自然とその上を通るようになりました。



お兄ちゃんお姉ちゃんが三輪車を押して遊ぶ姿を見て、0歳児のお友達も同じように三輪車の後ろを持って、押して遊ぶ姿が見られるようになりました。
前に乗るのは1歳児さん。全身の力で一生懸命押しています。
がんばれ～！

〈三輪車収納庫〉

乗り物で遊ぶ時には、三輪車収納庫から子ども達が自分で乗り物の用意をして、片付けも自分達でできるように小さなスロープをつけるなどの配慮をしました。



2歳児：お片付けも楽しいな



1歳児：先生、よろしくお願いします。

3. その成果と評価

乗り物を使うことが初めてだった子ども達は、使い始めの頃と1年を通して遊んだ現在とでは、少し違う姿を見せるようになっていました。その姿を、時間の経過とともに紹介します。

〈三輪車〉

初めは、新しい三輪車で遊ぶことが嬉しくて仕方がない様子で、またがってみるけれど、進み方（漕ぎ方）がわからず、またがってニコニコとしているだけの子どもが多くいました。後ろから保育者が三輪車を押すと、ペダルに足をのせて少し漕ごうとしています。しばらくすると、足漕ぎ三輪車に乗り換えて、足漕ぎ三輪車を足で蹴って進むことを楽しんでいました。

そのうちに三輪車に乗って、保育者が後ろから押して少し進む、ということを繰り返すうちに、ペダルを漕ぐと前に進むということがわかってきたようでした。

現在では、少しずつペダルを漕げるようになった子どもが増えてきましたが、まだ、漕げない子どももいます。ですが、三輪車に乗って止まっているお友達がいると、保育者と同じように三輪車を後ろから押して、二人で楽しそうに遊ぶ姿も見られるようになっていきます。前に進めない子どもが、ペダルを後ろ向きで漕いでバックで進むこともあり、それぞれの楽しみ方で遊んでいます。

〈足漕ぎ三輪車〉

初めは、新しい足漕ぎ三輪車で遊ぶことが嬉しくて、ハンドルを握るだけで楽しそうにしていました。足で蹴ってみて進むと、漕ぎ方がわかるようになり、足で蹴って進むことができるようになりました。ただ、方向転換が難しいようで、向きを変えたいときに転ぶことがよくありましたが、楽しい気持ちの方が強いようで、起き上がっては何度も挑戦していました。

現在では、足で蹴って前に進んだり、後ろに下がったりして遊んでいます。方向転換もスムーズにできるようになり、園庭で足漕ぎ三輪車に乗っての散策を楽しんでいます。方向転換の際に、倒れてしまうことも少なくなりました。1歳児の子どもは、誰かに押しってもらうのを待つ姿や、乗り物に乗るのではなく、押すことを好む子どももいて、友達の乗った足漕ぎ三輪車を押して楽しむ姿が見られるようになりました。

〈三輪車収納庫〉

三輪車を使うたびに、出す時と片付ける時の約束事を確認し、まずは保育者がお手本となって三輪車を運ぶ姿を見せることで、2歳児の子どもは少しずつ約束を理解するようになりました。

最近では、三輪車で遊ぶことを伝えると、収納庫の方へ保育者と一緒に向かうようになりました。また、遊んだ後に片付けの時間になったことを伝えると、自分が遊んでいた三輪車を収納庫へとそれぞれが運ぶようになっています。

今後も玩具で遊ぶ時と同じように、遊ぶことだけを活動の目的と捉えるのではなく、遊ぶ前には乗り物を収納庫から出して運ぶこと、遊び終わったら収納庫まで片付けをすることまでをひとつの活動と捉えて取り組み、乗り物のハンドルを持って押して運ぶ安全な運び方や、収納庫に入れて物を大切に扱う気持ちなどの、体と心の育ちを促します。

4. 今後の課題と展望

これまでの成果を見ると、子どもにとって三輪車にはペダルを漕ぐことに使う脚力にまだ年齢的な課題があると思われます。ただ、この課題については、子どもの成長とともに脚力も発達をしていくことが想像されます。ノイエ保育園では、2歳児の誕生日の翌月から、連携園へ転園をするので、今後も三輪車を使って遊ぶ経験はたくさん取り入れられていくこととなるため、課題を引き継ぎ、その後の成長を見守っていくことが可能となっています。その際、ノイエ保育園で三輪車や足漕ぎ三輪車で遊んだ「やったことがある」「楽しい」という経験がスムーズな移行に活かされていくと思われます。

また、子どもと遊ぶなかで線に沿って進もうとする姿や「ピーッ、ピーッ」とバックをしたり、「こっちで一す」と友達を誘導したりする姿が見られたので、道路、手作りの駐車場や踏切、信号を作って、交通ルール等を遊びながら知らせていく計画を立てています。

そして、三輪車での遊びを通して、全身を使った粗大運動、バランス感覚、友達との関わりを通しての社会性、遊びを通しての言語の獲得などを長期的に見守っていきたいと思います。

以上